

# 米の基本指針のポイント

参考資料1

## 平成26年7月指針策定時

## 平成26年11月指針策定時

### ● 平成26/27年の主食用米等の需給見通し(推計)

		(単位: 万トン)
		主食用米等
平成26年6月末民間在庫量 (速報値)	A	222 (35) (注)
平成26年産米生産数量目標	B	765
平成26/27年主食用米等供給量計	C=A+B	987
平成26/27年主食用米等需要量 (推計値)	D	778
平成27年6月末民間在庫量 (見込み)	E=C-D	209

注: 平成26年6月末民間在庫量の( ) 書きは、米穀機種の買入予定数量であり外数。

### ● 平成26/27年の主食用米等の需給見通し(推計)

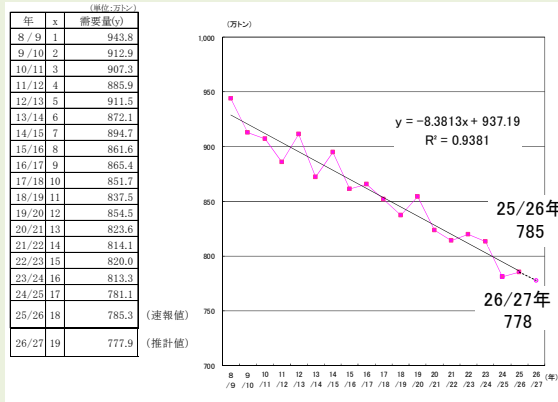
		(単位: 万トン)
		主食用米等
平成26年6月末民間在庫量 (確定値)	A	220
平成26年産主食用米等生産量	B	789
平成26/27年主食用米等供給量計	C=A+B	1,009
平成26/27年主食用米等需要量 (推計値)	D	778
平成27年6月末民間在庫量 (見込み)	E=C-D	230

注1: 平成26年産米のふるい下米や青死米等は、天候不順の影響に伴う登熟不良等により例年に比べて多く発生している状況にあることから、実際に主食用米等として流通する量は、例年よりも17~20万トン程度減少し、これにより平成27年6月末民間在庫量も減少する可能性がある。

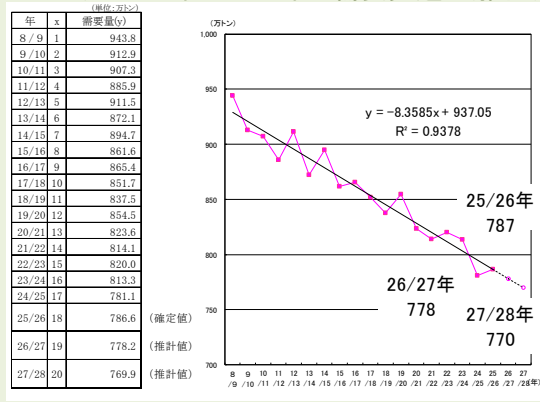
注2: ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

平成26/27年の需給状況については、平成26年産米の生産量が前年より30万トン減少する中で、ふるい下米や青死米等が、天候不順の影響に伴う登熟不良により例年に比べて多く発生している状況にあることから、実際に主食用米等として流通する量が減少(▲17~▲20万トン程度)する可能性がある。

### ● 平成26/27年の需要見通し(推計)



### ● 平成26/27年・27/28年の需要見通し(推計)



○ 需要見通しを、トレンドを用いて算出すると、平成26/27年は778万トン、平成27/28年は770万トンと見通される。

### ● 近年の生産数量目標の推移

年産	21	22	23	24	25	26	27(案)
生産数量目標	815	813	795	793	791	765	751~739 (自主的取組参考値)
前年差	±0	▲2	▲18	▲2	▲2	▲26	▲14~▲26

都道府県段階において、自ら需要の動向を把握し、戦略的に主食用米や非主食用米の生産量を考えようとする機運を高めるため、「自主的取組参考値」を生産数量目標の設定に併せて付記する。

### ● 27年産米の生産数量目標等

#### 1 全国生産数量目標

平成27年産米の生産数量目標については、平成26年産米の10月15日現在の作況指数が「101」と見込まれている中で、ふるい下米の増加分を除いても、生産量が6万トン増加したことや、近年のトレンドにおいて需要が毎年8万トン減少していることを勘案し、昨年の生産数量目標765万トンから14万トンを控除した751万トンとする。

#### 2 全国の自主的取組参考値

平成27年産米については、生産数量目標の設定に併せ、仮にこれだけ生産すれば、平成28年6月末の民間在庫量が過去の平均水準に近づくこととなるものとして、全国の自主的取組参考値739万トンを設定する。

#### (参考)平成28年産米における都道府県別の生産数量目標等

平成28年産米の都道府県別の生産数量目標及び自主的取組参考値については、平成27年産米における都道府県別シェアを固定し、当該シェアで按分することにより設定することを基本とする。